

『昭和・平成・令和 これからのライフ&キャリアとFP』

昭和の“人生すごろく”は過去となり、生活者の意識も“今・ここ・私”へと矮小化・多様化し、個々人に寄り添った納得感の高い提言に繋げる事が益々難しくなっています。そこで、9月継続教育研修会では、ライフプランの両輪となるライフスタイルと働き方の最新動向を、長年マーケティングに携わっている齊藤徹氏と労働経済学がご専門の玄田有史氏のお二人にそれぞれ整理・解説していただき、その本質を“FPとして”、また“自分ごと”として捉えていきます。

開催日時：2019年9月14日(土) 13:00～16:30

第一部 若者、女性、プレシニア(50代)のライフスタイル

＜株式会社電通 ソリューション開発センター フォアキャスト研究部 主任研究員＞ 齊藤 徹 氏
AI やロボットに代表される第4次産業革命が進行し、一方で急速な少子高齢化が進む日本社会において、さまざまな生活者価値観の転換が進行しています。本講演においては、価値観変化でも特に世代別の違いにポイントを当て、今後の社会の未来に向けて若者、女性、プレシニア(50代)の生活意識、ライフスタイル変化について解説いたします。



第二部 我々は何を残し、何を考え、どこへ向かって働くのか

＜東京大学 社会科学研究所 教授＞ 玄田 有史 氏
私たちの働き方が変わらなければならないのは、働き方改革のためだけでなく、そうせざるを得ない切実な現実と未来があるからだ。なかでも人生 100年時代の折り返しを迎えた50代は、どのような働き方を誰に対して残すべきなのか。昭和から平成への働き方の変化を振り返りつつ、令和の働き方について考える。



齊藤 徹 氏 【プロフィール】

株式会社電通ソリューション開発センター、フォアキャスト研究部主任研究員。電通シニアプロジェクト代表、電通未来予測支援ラボ・メンバー。国際長寿センター客員研究員、吉祥寺グランドデザイン改定委員会幹事会。
主な著書に『超高齢社会マーケティング』(ダイヤモンド社)『ショッピングモールの社会史』(彩流社)『吉祥寺が「いま一番住みたい街」になった理由』(ぶんしん出版)『発達科学入門』(共著・東大出版会)。『社会課題解決ビジネス(仮)』(翔泳社) 本年秋出版予定。

玄田 有史 氏 【プロフィール】

1964年鳥根県生まれ。東京大学大学院経済学研究科退学。学習院大学経済学部教授等を経て、2007年より東京大学社会科学研究所教授。経済学博士。専門は労働経済学。著書に『仕事のなかの曖昧な不安』(サントリー学芸賞、日経・経済図書文化賞)、『ジョブ・クリエイション』、『14歳からの仕事道』、『働く過剰』、『希望のつくり方』、『雇用は契約』等。共著に『ニート』、編著に『人手不足なのになぜ賃金が上がらないのか』等。

会 場：東京都千代田区大手町1-3-7
日経ビル 日経ホール(右地図参照)

受 講 料：3,000円

認 定 単 位：3.5単位(ライフ)

※申込受付は、日本FP協会東京支部サイト、または日本FP協会Myページにて7月12日より開始予定。



〈お問い合わせ〉日本FP協会 東京支部
tokyo_bb@jafp.or.jp



特定非営利活動法人(NPO法人)

日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 東京支部